

国際経済 2021 年度秋学期 期末試験問題

(実施日時: 2022 年 1 月 27 日 2 限、担当教員: 柳瀬明彦、持ち込み不可)

- 問題 1～問題 4 のうち 2 問を選択し、解答しなさい (3 問以上選択した場合は 0 点とします)。解答はすべて解答用紙に記入し、最初に選択した問題番号を明記すること。
- 記述問題においては、箇条書きやフローチャートなどを用いずに、文章で説明すること。また、記号や図を用いる場合、それらが何を表すのかきちんと定義すること。
- 問題に対する解答と関係のない内容を書かないこと。悪質なものは 0 点とします。

問題 1 ある財を輸入している国の、この財に対する需要関数と供給関数がそれぞれ $D(P) = 1400 - 20P$ と $S(P) = 10P$ で表されているとする (P は財の価格)。

(1) この国は世界市場において小国であり、財の国際価格が $P = 15$ で与えられているとする。

- ① この国が自由貿易を行っている場合の財の輸入量を求めなさい。
- ② この国の政府が財の輸入 1 単位当たり $t = 5$ の関税を課したとする。このとき、この国には自由貿易のときと比べてどれだけの厚生損失が発生するか、詳しく説明しなさい。
- ③ この財の生産者が利益団体を組織して政府に政治的働きかけを行っており、したがってこの国では政府が重視するのは加重された社会厚生であるとする。生産者余剰に対するウェイトを A^{prod} で表す (消費者余剰と関税収入に対するウェイトはともに 1 であるとする)。このとき、政府が自由貿易よりも輸入関税の実施を選択するのはどのようなときか、正しいものをすべて選び、記号で答えなさい。

ア $A^{prod} = 1$

イ $A^{prod} = 1.5$

ウ $A^{prod} = 2$

- (2) この国が大国である場合、輸入関税による保護貿易政策によって自国の厚生が改善することは可能であるか、図を用いて論じなさい。

問題2 2国(A国・B国)2財(X財・Y財)の世界経済を考える。各財の生産には労働のみが投入されると仮定し、A国では労働1単位の投入によって4単位のX財または3単位のY財が作られる一方、B国では労働1単位の投入によって1単位のX財または2単位のY財が作られるとする。このとき、以下の問いに答えなさい。なお、市場は完全競争的であると仮定する。

(1) 次の①と②の文章について、それぞれ正しいものを選択し(一つとは限らない)、記号で答えなさい。

① A国は、

- ア X財に比較優位および絶対優位を持つ。
- イ X財に比較優位を持つが絶対優位を持たない。
- ウ X財に絶対優位を持つが比較優位を持たない。
- エ Y財に比較優位および絶対優位を持つ。
- オ Y財に比較優位を持つが絶対優位を持たない。
- カ Y財に絶対優位を持つが比較優位を持たない。

② 自由貿易の下での^A国の労働者の賃金を^B国の労働者と比較すると、

- キ ^A国の労働者の賃金の方が高くなる。
- ク ^B国の労働者の賃金の方が高くなる。
- ケ 両国の労働者の賃金は均等化する。
- コ どちらの国の労働者の賃金が高くなるかははっきりしない。

(2) A国とB国の労働賦存量がそれぞれ900と1500で与えられているとし、また両国の消費者はともに所得の半分をそれぞれの財に支出すると仮定する。両国が自由貿易を行った場合の結果について、以下の問いに答えなさい。

- ① 自由貿易均衡におけるX財の相対価格(X財価格をY財価格で割ったもの)を求めなさい。
- ② 各国の貿易パターンがどうなるか、答えなさい。
- ③ 各国が貿易利益を得るかどうかについて、論じなさい。

問題3 A国とB国から成る世界経済を考える。A国には企業A、B国には企業Bが存在し、ある同質的な製品を生産している。この製品に対する各国の需要は、 $P_i = 130 - Q_i$ という同じ逆需要曲線で表されるものとする（ P_i と Q_i はそれぞれ*i*国における製品の価格と需要量）。これら2社の企業以外に同じ製品の生産者はおらず、また両国の市場は分断されていると仮定する。両企業は自社製品を同じ一定の限界費用10で生産・販売できるものとし、また固定費用はゼロと仮定する。

- (1) 両国がともに自給自足の状況であった場合の、A国での販売価格と販売量を導出しなさい。
- (2) 両国の間で自由貿易が行われる状況を考える。両企業とも、海外への製品の輸出には輸送費がかからないと仮定する。両企業はそれぞれの市場でクールノー競争を行うものとする。クールノー均衡におけるA国での販売価格と販売量（両企業の販売量の合計）を導出しなさい。
- (3) 貿易が各国の企業の利潤、消費者余剰、そして全体としての社会厚生に与える影響を、図を使って分析しなさい。
- (4) 各企業は海外に製品を輸出する際に輸送費を支払う必要があるとする。出荷1単位当たりの輸送費を τ で表すことにすると、貿易が各国の社会厚生を悪化させるのはどのようなときか、正しいものをすべて選び、記号で答えなさい。

ア $\tau = 12$

イ $\tau = 24$

ウ $\tau = 36$

問題4 以下の各問いに答えなさい。

(1) ある多国籍企業が外国で自社製品を売りたいと思っていて、そのためには輸出するか、または海外直接投資 (FDI) を通じて外国市場向けに現地生産するかを決定する必要がある。外国における製品の逆需要関数は $P = 100 - Q$ という式で与えられると仮定する (P は製品の価格、 Q は販売量)。また、生産の限界費用は一定で、20 で与えられるものとする。この企業は、生産を行う場合、独占企業になると仮定する。外国で生産するには F だけの固定費用が必要となる一方、自国で生産し外国に輸出するには、固定費用は不要だが出荷 1 単位当たり τ の輸送費がかかる。 $F = 400$ で $\tau = 10$ のとき、この企業は輸出と FDI のどちらを選択するか、説明しなさい。

(2) A国とB国から成る世界経済を考え、X財とY財という2つの財のみが存在し、ともに労働と資本を用いて生産されると仮定する。A国とB国は同じ生産技術を持っており、X財1単位の生産には4単位の労働と2単位の資本を必要とし、Y財1単位の生産には1単位の労働と3単位の資本を必要とする。A国には600単位の労働と400単位の資本があり、B国には200単位の労働と300単位の資本がある。A国とB国の家計の効用関数は同じであり、また同じ生産要素は国内の生産部門間を自由に移動可能であるという仮定の下で、以下の問いに答えなさい。

① A国とB国のどちらがX財に比較優位を持つか、説明しなさい。

② 自給自足のときと比べて、貿易によってA国の労働者の賃金は上がるか、それとも下がるか、説明しなさい。

(3) 以下の各文の内容が正しければ○、誤りならば×と答えなさい。

① 完全競争市場における輸出補助金は必ず厚生損失をもたらすが、厚生損失は小国よりも大国の方が深刻なものとなる。

② 全ての企業が同じ生産技術を持つ独占的競争の貿易モデルにおいて、貿易は自給自足に比べて均衡における消費者余剰と各企業の利潤の両方を増加させる。

③ リプチンスキー定理によると、ある生産要素の供給量の増加は、その生産要素を集約的に用いる財の生産量の増加と他の財の生産量の減少をもたらす。

